

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 15 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102187
事業所名	グループホーム梅本の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	村上 美香
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 22 日

<p>【事業所理念】</p> <p>利用者と共に笑い 家族と共に歩み 地域と共に支え合う</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画に沿って、ケアプランチェック表を作成し、各入居者の介護計画を「見える化」した。主に取り組むべき支援について確認し、各個人の記録に反映しやすくなった。</li> <li>・口腔内チェック、食事の様子の観察から何名か歯科受診をし、義歯の調整や虫歯の治療、又は食事形態の変更により、食事量増加につながった。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市中心部から少し離れた、山あいの四季折々の景色が眺められる静かな場所に、事業所は立地している。事業所の横には、法人本部と特別養護老人ホーム等が併設されているほか、法人では数か所の福祉施設や事業所を運営するなど、地域に根づいた福祉を展開している。また、事業所には勤務経験の長い職員も多く、職員同士が相談し合うなど、より良いチームワークの職場づくりを目指しており、待遇面においても安心して働くことができている。さらに、管理者等は、「利用者に生き生きとした楽しみのある毎日を過ごしてもらいたい」との思いで、日常生活の中に、利用者ができることを見つけながら役割を持ってもらっている。訪問調査日には、自然に洗濯物干しなどの家事を行う利用者の様子を見ることができた。加えて、現在のコロナ禍において、事業所には外出制限があり、利用者は外出できる機会が激減しているものの、事業所内でできるお好み焼きづくりや運動会など、楽しみのある行事を開催する工夫をしたり、その様子を家族にグループホーム通信「梅本の里便り」などを活用して写真で伝えたりするなど、家族が安心できる取組みを行っている。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	出来る限り利用者個々の希望や意向の把握に努めている。	○	/	○	入居前に、職員は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き、確認している。日々の生活の中で、知り得た情報は記録に残し、職員全員で把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人がどうして欲しいか、どうしたいのかを相手に気持ちになって考え取り組んでいる。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	コロナウイルス感染対策の為面会は出来ていないが、入所時には家族から情報収集を行い、その後も手紙や電話等でやり取りはしているが、話し合いまでは実施できていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	パソコンシステムで共有しているが、細かな記録ができていない時がある。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士で話し合い、必要時にはカンファレンスや委員会を通して協議し注意し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	コロナウイルス感染対策の為面会は出来ていないが、入所時には家族から情報収集を行い、その後も電話等でやり取りをして生活歴や生活環境等を聞いている。また、日常の関わりの中で本人から昔の話を聞くよう心掛けている。	/	/	○	入居前に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方など聞くほか、入居後も継続して情報を聞いている。入居前に利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員から情報を聞くこともある。また、入居申込の際には、家族に利用者の経歴や趣味などを記載してもらったシートを渡し、提出してもらっている。さらに、日々のかかわりの中で、知り得た情報は記録に残すほか、口頭で伝達して職員全員で共有できるよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	その方が今出来ることを見極め、出来ることをしていただくように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員間で伝達し情報共有しながら、ある程度把握はできている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間で伝達し情報共有しながら、ある程度把握はできている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で伝達し情報共有しながら、ある程度把握はできている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	職員会議や委員会等で話し合いを設けているが、職員間でのみの検討会となっている。	/	/	○	事前に把握した情報から、どのような支援を求めているかを利用者の立場で考えるほか、利用者や家族、関係者から聞いた情報をもとにして職員間で話し合い、より良いサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	情報収集し本人の希望や意向の把握に努め検討し、実行している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題についても検討し、話し合いを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	情報収集し本人の思いや意向に出来る限り反映した内容としている。				利用者や関係者の意見を聞くほか、職員間で意見を出し合いながら検討し、計画作成担当者が取りまとめた介護計画を作成している。計画の作成後には、家族に内容を確認してもらうことができていないため、コロナ禍の収束後には、家族にサービス担当者会議への参加を呼びかけたり、定期的に意見や意向を聞いたりするなど、出された意見が反映された計画が作成できることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	利用者の生活状況・心身状態・日常の記録をもとに、職員同士での話し合いが中心となっている。家族には、ケアプランをもとに説明し、意見や要望があった場合、反映できるように努めている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	情報を収集しその人らしく生活できる環境を整えて、出来る限り実現できるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナウイルス感染対策の為、外部との接触が難しく、地域の人たちの協力体制等はなかなか盛り込まれていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各職員が介護計画の内容を理解し、職員会議にて話し合い協議し、情報共有できている。			○	職員会議の中で、職員は介護計画の内容の話し合いをしていることもあり、利用者一人ひとりの計画内容を把握している。日々のケアにおいて、介護計画のサービス内容に沿って実施できているか確認できるよう、ケアプランチェック表の項目を介護計画の内容と連動し、どの職員が見ても分かりやすい状況確認ができるような様式を作成するなど、職員間で検討することを期待したい。また、日々利用者が発した言葉や表情など、その時々の様子が職員間で共有できるよう詳細な記録を残し、日々のケアに繋がられることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	話し合いや連絡簿等で情報共有できている。チェック表を作成し評価をしながら日々のケアにもつなげている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	細かな記録ができていない時がある。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	共通連絡にて気づきがあれば記録し、職員間で共有している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。			○	要介護認定の期間に合わせて、介護計画の見直しをしている。状態の変化が見られない利用者までは、毎月モニタリングを行い、現状確認をすることができていないため、利用者の状態の変化を見逃すことも考えられ、期間を決めて定期的にモニタリングを実施するなど、現状に即した介護計画の作成ができることを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	変化が見られない時には、毎月の現状確認はできていない場合がある。			△	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	現状に即した細やかな計画の変更が出来ていない場合がある。			△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月の会議と緊急時には、その日の出勤職員を中心に話し合いを行っている。			◎	毎月実施する職員会議を両ユニット合同で行い、利用者の様子や事業所の取組みなどの話し合いをしている。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員は、後日会議録を確認してもらったほか、重要事項は口頭でも伝達を行い、職員間で情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、意見交換が出来るように、事前に協議内容を配布し、考えや意見をまとめて皆が発言できるようにしている。また、司会進行も持ち回りでしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り多くの職員が参加できる日を決めて会議を行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員には、口頭で伝えたり、会議録やシステムの共通連絡にて出席した職員も含め全職員が確認をしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	情報を全職員が確認できるように、システムの共通連絡を活用し、徹底できている。			◎	朝・夕の申し送りを実施している。毎日の申し送り事項や会議録は、パソコンのシステムを活用して画面上で確認するようになっている。また、記録の確認後には名前を入力し、どの職員が確認を見落とししていないか、分かるようなシステムとなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	情報伝達事項を申し送りやシステムの共通連絡を活用し、伝わるように徹底できている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	散歩や運動等の生活の中でできる事の希望は聞きながら実施しているが、一人ひとりのその日したいことの把握、実行までには至っていない。	/	/	/	お茶の時間の飲み物やその日に着る洋服を、多くの利用者は自分で選ぶことができている。日常生活においても、職員が一方的に決めることなく、利用者が選択できるような声かけや対応に努めている。また、一人ひとりの趣味を楽しんでもらっており、中には、入居前からの習字や裁縫、ジャズ鑑賞などの趣味を継続できている利用者もいる。さらに、現在のコロナ禍において、事業所内で過ごす時間が増えているため、バーベキューやおやつ作りなどを取り入れ、利用者が楽しめるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	暮らしの中で選択し、自己決定できるように焦らせない雰囲気作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	出来る限り、どうしたいかなど思いや希望を確認しながら、生活して頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	出来る限り、一人ひとりの方に合わせたペースで支援するように心掛けているが、職員の都合を優先した場面も見られる。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が元気にあいさつしたり、ゆったりとした笑いの多い雰囲気作りに心がけている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	その日の身体・精神的状況により職員同士が気づきを共有し本人の意向に沿った支援をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	人権や尊厳についての学びは実施できていないが、意識し行動できている。	/	○	○	職員は、利用者の人権や尊厳を大切にされた日常のケアに努めているが、時には、無意識の内にあからさまな介護や大きな声でトイレ誘導を行う場面も見られる。定期的に、職員がケアの振り返りを行うとともに、職員同士で注意し合うなど、職員間で話し合い、利用者の人権や尊厳について再認識できることを期待したい。また、居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、職員はノックや声かけをしてから入室できるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	意識し行動はしているが、時折できていない時がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	各居室にトイレを設置しているため、プライバシーには十分注意できている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入り時には必ず声掛けを行い、意識し対応している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	十分理解できていると考える。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事を一緒にしたり、裁縫をしてもらったり、お互いに感謝し合える関係性ができている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性や性格を理解し、リビングの配席の考慮などの対応をしている。また、些細なトラブルなど、他の利用者が仲裁してくれる場面も見られるなど、力を発揮してもらうことができ、職員は助かっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者が共に助け合い支え合い互いに感謝する事の大切さを理解し、支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、極力トラブルがないよう努めている。利用者が孤立しないように配慮もしている。利用者の個々の能力を發揮できる環境を整えている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった各利用者のお話を傾聴し、精神的な安定を図っている。他の利用者に関しても、不安等がないように声かけや気分転換を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	細かな人間関係を把握できていない場合がある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	細かな人間関係を把握できていない場合がある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルス感染対策の為、面会が出来ていない現状である。以前は知人や友人の面会はあったが、こちらからはなかなか行くことができていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナウイルス感染対策の為、面会はできていないが、所用で職員が家族に会う時は話しやすい雰囲気心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染対策の為、外出はできていないが、ベランダ散歩や植物の世話などで外に出る機会をつくっている。	○	×	△	コロナ禍以前は、外食やドライブに出かけるほか、個別の外出支援にも対応することができていた。現在のコロナ禍において、外出できる機会は激減しており、ベランダや駐車場に出て散歩をしたり、重度の利用者も含めて、外の景色を眺めながら外気浴ができるよう工夫している。また、事業所では、パーベキューやおやつ作り、施設内での運動会などを取り入れ、利用者に楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援ボランティアの活用はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	出来る限り、散歩や日向ぼっこなど閉じこもらないように努めている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナウイルス感染予防の為外出は出来ていない。以前は外出行事などでご家族の協力を得ているが、回数は少ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修の情報を共有したり勉強会を実施し、ある程度認知症についての知識を持ち対応にあたっている。				利用者のできることや、できそうなことを職員が見極めて、細かいことでも利用者ができることを見つけて一緒に行ったり、見守ったりする支援に努めている。時には、時間の制約や待ちきれず、利用者に口や手を出してしまうことも見られる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症状について職員間で情報共有し、維持向上が図れるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	極力ゆくりと待つ姿勢で一緒に行ったり、できることをしてもらい個々の力を発揮できるよう環境づくりを行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	情報を収集し、本人の意欲向上につながるよう把握している。				洗濯物干しやたたみ、野菜の皮むきなどの調理の下準備、掃除など、利用者に役割や出番を持ってもらえるよう支援している。職員は手伝ってもらった場合には、利用者に感謝の気持ちを伝えている。また、裁縫の得意な利用者が雑巾を縫ったり、ズボンの裾上げをしてもらったりするなど、得意なことを活かせるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できなくなったことに目を向けるのではなく、できることに目を向け、役割、生きがいを感じて過ごしてもらえよう、楽しめる環境を整えている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割等の支援がなかなかできていない。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	身だしなみに気を付けていたが声かけを行っているが、本人の個性に合わせてまでは実施ができていない。				整容の乱れや汚れが見られた場合には、利用者の羞恥心やプライドに配慮しながら対応をしている。お化粧品や好みの装いなど、おしゃれを楽しんでいる利用者もいる。また、ベッド上で過ごすことが多い利用者にも、日中にはパジャマから好みの屋間着に着替えてもらうなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族の協力を得ながら、利用者が好みの服装や持ち物などで整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	必要時には利用者と一緒に考え意見を聞きながら決定している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装に心掛けているが、その人らしい服装を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服の着方が間違っている場合などは、自尊心を傷つけないように居室に戻っていただき、優しい声掛けに気をつけている。食べこぼし等さげなくカバーが出来る。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナウイルス感染対策の為外出できていない。以前もいきつけの美容室や理容室に行かれる方は少数であった。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	出来る限り、本人らしい髪型や服装になるように心掛けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事について大切さを理解している。				事業所では、献立の作成と食材の調達を食材の宅配業者に委託している。業者から届けられた食材を活用し、日常的に利用者には調理の下ごしらえや片付けを手伝ってもらいながら、主に調理を担当する職員を中心に調理をしている。誕生日には業者の配達を止めて、利用者のリクエストを取り入れて、調理することができている。朝食時に添える果物などの購入は、ネットスーパーを活用している。食器類は、利用者自身が使い慣れた物や、使いやすい物を使用している。キッチンがリビングに面しているため、重度の利用者も調理の匂いや音を感じることができている。また、現在のコロナ禍において、職員は利用者と同じ距離をおいて、見守りやサポートをしながら、各ユニット1名は利用者と同じ献立を食べようとしている。さらに、委託業者が栄養バランスに考慮した献立を作成しているほか、職員間で調理方法などを話し合い、状況に応じて柔軟に対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材選びや買い物は外部委託の為、実施出来ないが、料理の下準備や後片付けなど利用者とともにやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者にしてできることをして頂き、役割づくり生きがいにも繋がっている。終わった後には必ず感謝の気持ちを伝えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	情報収集し職員間で共有、把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は外部委託であるが、誕生日などは委託を中止し、旬の食材を使用したり、利用者の好みや昔懐かしいメニューも取り入れて献立作りをしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	必要時には本人や家族・主治医・職員間で相談しながら食事形態を決めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	今迄使い慣れたものや使いやすい物、を使用してもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	△	コロナウイルス感染予防の為、一緒に食事はしていない。食事中は見守り食事のペースや食べこぼし等に対するサポートをさげなく行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の準備を見て頂いたり、においを感じてもらえる様にフロアで過ごしてもらっている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりの食べられる量に気をつけている。水分制限がない方に関しては、一日の水分量を1,500～2,000ccを目標とし脱水にも注意している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事チェック表を活用し食事摂取量を把握できている。食事摂取量が少ない時には、本人に確認したり、必要時には食事形態を変更するなど対応している。水分摂取は摂取量に気を付け、飲み物も工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立、調理方法は、外部委託により、バランス・栄養が考えられたものになっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は、外部委託で定期的配達され、冷蔵・冷凍により、新鮮さや衛生面に配慮されたものになっている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性を理解し、口腔ケアを実施している。歯が無く義歯も使われない方に対しては、毎食後うがいをしてもらうようお願いしている。				毎食後、利用者は口腔ケアを行い、職員は口腔内の状況確認や清潔保持に努めている。異常があれば、歯科医の受診に繋げている。自分で歯磨きをしている利用者の口腔内の状況までは確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することを期待したい。また、事業所では口腔ケアの勉強会や研修を実施することができていないため、口腔ケアが全身疾患の予防や健康状態の維持向上に繋がることが職員全員が理解し、歯科医や歯科衛生士を講師として研修を実施したり、アドバイスをもらったりするなど、口腔ケアの重要性を再認識できることを期待したい。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアをご自分でされる方は、終わった後に声かけし口腔内の確認を行い、十分できていない場合は磨き直しを行っている。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	口腔ケアの必要性は理解しているが、勉強会等は実施できていない。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯洗浄実施。歯磨き粉等で洗われようとされる方もいる為、声掛けや見守りにて支援している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	ある程度支援できている。					△
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常等あれば、早期に受診や往診に繋げるように努めている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	現在、全入居者がトイレにて排泄を行っている。オムツの使用についても出来る限りパンツに変えていけるように取り組んでいる。				事業所では、トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけやトイレ誘導を行っている。パッドや紙パンツに頼りすぎず、適切な排泄用品の使用などを、定期的に排泄委員会で話し合うことができている。また、声かけやトイレ誘導で、パッドの使用枚数を減らすことができた利用者もあり、自立や自信に繋がるような支援にも取り組んでいる。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	把握はできている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄委員会を中心として、話し合いを行い、見直しを行っている。一人ひとりの状態に合わせたパット等を選んでいく。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄委員会を中心として、検討し、改善に向けて実行している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェックをもとに個々の排泄パターンの把握に努め、職員間でも情報共有するように努めている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	パット等の使用については、時間帯によって種類を変えて対応している。必要時には家族にも相談して対応している。ご自分でパット交換される方は、交換しやすいパットを使用してもらっているが、介助のいる方には職員が一方的にパットの選択をしていることもある。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	1人ひとりにあつた下着やおむつを使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取を促し、毎日体操の実施、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れて自然排便を促している。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	午前中の中入浴がほとんどで、その中で本人の要望を伺っている。	◎		○	利用者は、3日に1回を基本として入浴することができる。入浴の回数や時間など、利用者の希望や状態に合わせて、柔軟に対応している。また、季節に応じて入浴剤を使用するなど、入浴を楽しんでもらえるような工夫をしている。さらに、事業所では、なるべく利用者が湯船に浸かれるような入浴支援に努めており、利用者の状態に応じて、シャワー浴の対応をしたり、併設施設の機械浴槽を活用した入浴を検討したりすることもある。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時はその方に合わせて対応し、焦らずゆっくり入浴できるように努めている。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身洗髪等出来ることをして頂き、必要時は声かけ見守りを行い、安全に入浴できるように努めている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否される方に対しては、足湯で対応したり、着替えのみしていただいたり、その日の状況によって、無理強いせず対応している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、状態観察し、入浴している。血圧が高い時や熱発されているときなどは、説明し、納得して頂き中止とすることがある。入浴後には、状態観察し静養して頂いている。					

愛媛県グループホーム梅本の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間は一時間おきの巡回や必要によっては頻回に様子観察している為、睡眠パターンを把握できている。	/	/	/	入居前から、服薬を継続している利用者もいるものの、事業所では日中の過ごし方や対応を工夫しながら、主治医と相談して服薬を取り止めることのできた利用者もいる。また、事業所では、なるべく睡眠導入剤や安定剤に頼りすぎないように状態を確認しながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	職員同士で話し合いを行い、活動量を増やすなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠状態を確認し、必要時には主治医に相談して、薬の量の調整依頼や薬を止めたりと状態に合わせて変更を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入浴で疲れていたり、足の浮腫みがある方など必要時には昼寝の声をかけている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご自分から電話の希望がある場合は、随時対応している。遠方の家族はこちらから連絡をしたり、近況報告等を手紙で送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人からの訴えが無い場合には、手助けが十分には出来ていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	夜間などは説明させてもらう場合もあるが、いつでも電話をかけられる様には配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	一緒に確認し、必要時には返信のお手伝い等行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要時には、家族に説明理解・協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	概ね理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナウイルス感染対策のため外出ができておらず、買い物は家族が職員が行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	日頃から働きかけはできていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談し、預かり金とは別に、小額をご自分で管理して頂いている方がいるが、買い物に出かけて自分で使えるような支援には至っていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居する際に説明している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に十分に説明すると共に、面会時には家族に出納帳を確認してもらいサインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の状況に合わせて、相談しながら、サービス提供している。	/	◎	◎	コロナ禍以前は、家族の協力を得て外出や旅行を楽しむ利用者がいたほか、希望によりマッサージなどの外部サービスを取り入れることもできていた。また、事業所では、可能な範囲で利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	併設の施設がある為、初めて来られた方には分かりにくい。	◎	△	△	外部からの来訪者は、事業所へ地下駐車場からエレベーターを使用して行き来するようになっている。併設施設もあり、敷地や駐車場も広く、初めて来訪した人が事業所の入り口が分かりやすいように駐車場内に案内板を出している。また、エレベーター内には利用者の日常の様子を写真を貼っている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の掲示物を入居者と一緒に作成して共有スペースに掲示したり、ソファやテーブル等色彩を考え、家庭的な雰囲気をつくり心地よく過ごせる環境となっている。	◎	○	○	リビングに面した対面キッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができ、コミュニケーションも取りやすくなっている。掃除道具や日用雑貨も、利用者の手の届く場所に置き、生活感がある。また、空調の吹出口に布を取り付け、利用者へ直接風が当たらないよう工夫している。さらに、窓からは山などの景色が眺められ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	曜日で掃除をする場所を決めて実施している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓から良い山の風景が見えるので、季節の移り変わりを感じることができている。家具等家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるよう工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	配慮し、工夫している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	各居室にトイレが設置されている為、他の方が使用する事がない。浴室も直接見えないうに造られている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に説明し、使い慣れたものを持ってきていただいている。	◎			居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、洗面台、トイレが備え付けられている。ほとんどの利用者は、居室にあるトイレを使用している。また、馴染みの物や好きなものを置き、居心地の良い空間になるよう支援している。さらに、生活習慣で、床に布団を敷いて寝ることを好まれる利用者には、床に畳を敷くなどの対応をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	フロア内だけでなく、廊下やベランダを歩かれたりされている。危険が無い様に状況確認を行っている。必要時付添いもしている。			○	事業所では、リビングを囲んで各居室が配置され、利用者は生活しやすくなっている。自分の居室の場所に迷う利用者には、入り口に分かりやすく名前を表示している。また、利用者により月日が確認できるよう、大きい文字や数字で記した日めくりカレンダーをリビングに設置している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員同士で情報共有をし、配置等に工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	物によっては、すぐに手の届かないところに置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	概ね理解はしているが、オートロックである為、改善に向けての話し合いはできていない。しかし、窓は夜間以外は開錠し自由にベランダに出れるようにはしている。	◎	○	○	各ユニットは、併設の複合施設の建物内部とつながっているものの、その間を仕切る扉は建物の構造上でオートロックになっており、普段は活用されていない。また、1階と2階のユニット間の入り口は施錠されておらず、利用者は階段を使用して行き来することができる。さらに、帰宅願望のある利用者や限られた空間で不穏になる利用者には、職員と一緒にベランダや駐車場に出て散歩をするなど、落ち着いてもらえるような対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	構造上の問題もあり、話し合いはできていない。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	構造上他の建物と併設で建っている為、オートロックを採用している。その為、外に自由に行き来が出来ないつくりになっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報を共有し利用者本人の状態について把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体の状態変化に気付いた場合、看護師に報告し必要時早期受診に繋げている。変化についても記録にも残す様に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	24時間看護師と連携しており、迅速な対応に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時や必要時には本人・家族と確認し、希望する医療機関に受診できるように努めている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	必要時には主治医と連絡をとり、相談しながら受診等に繋げている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診した結果について家族等と情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時にはサマリーを作成している。口頭や連絡等でも情報提供するように努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には地域医療連携室の相談員と連絡を取り、病院で直接やり取りや話し合いをしたり、電話でも状態確認に努め、一日でも早く退院ができるようにこちらも受け入れ態勢を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	協力病院は、日頃より関係づくりは出来ているが、入院の場合に備えて日頃からの関係づくりはあまりできていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気付いた事は常時看護師に報告するようにしている。必要時は主治医に報告し、報告・連絡・相談の情報共有を図っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	気軽に相談できる体制で十分連携できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	看護師と情報共有を図り、連携する事で、早期発見・早期治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ある程度は理解できている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	共通連絡を活用しながら、全職員が統一した対応が出来るように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	確認し、副作用があれば、看護師、主治医に報告し薬の調整を行い、早期に対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態の変化があれば、その都度医師に報告し、薬の調整をしている。情報提供できている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	その都度、家族の意向を聞きながら、話し合いを行っている。	/	/	/	事業所には、「グループホームにおける看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所での看取り介護は、可能となっている。利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認するほか、主治医と相談しながら今後の方針を決めている。また、事業所の開設から、看取り介護を数回経験しているものの、ここ数年は病院への入院や系列施設へ転居する利用者が多くなっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	必要時には、家族と相談し、病院のドクター等も交えて話し合いの場を設けている。	x		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	把握に努め、見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明し、運営推進会議等でも説明をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	利用者の状態に応じて、重度や終末期について家族や主治医等と話し合いを行っているが、全利用者が出来ているわけではない。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	出来る限り、密に連絡を取り、対応しているが、全利用者にできているわけではない。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修を実施し蔓延防止に努め、感染症が流行する時期には消毒や換気、加湿器の設置、マスクの着用など感染症予防を徹底している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	年に一度は必ず感染症の研修を実施しているが、全員の参加が出来ていないため、研修した職員が資料配布や口頭での情報共有を図っているが、日頃から実践での訓練までは出来ていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	法人全体で情報は入手し配布している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人全体で地域の感染症発生状況を確認し、情報発信し、注意を呼びかけるなど、随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症が流行時期には特に職員・利用者の手洗いうがいの実施やマスクの着用、アルコール消毒。来訪者へお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	関係づくりに努めてはいるが、全職員は関係を築けていない。				コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけ、参加協力を得て交流を深めることができていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けるようになってから、毎月送付する請求書に合わせて、利用者の日常の様子が分かる写真を同封するようになっている。また、毎月グループホーム通信「梅本の里便り」を発行しており、事業所内で実施した行事や利用者の写真を掲載し、家族に送付している。コロナ禍で家族の来訪が激減し、事業所では職員と顔を合わせる機会が少なくなっているため、毎月写真を送付時に、管理者と担当職員から、利用者の様子を書いた手紙を同封したり、利用者本人に書いてもらった直筆の文書を添えたりするなど、家族の面会が制限されている中でも気軽に相談でき、安心感を持ってもらえるような取組みを期待したい。さらに、電話連絡時には、家族に利用者の近況を伝えるようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が来所された際は、笑顔で挨拶を心掛け、面会中止中は利用者の普段の様子を伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナウイルス感染対策の為現在実施できていないが、以前は食事会や行事を企画し、家族がホームに訪れて頂けるよう取り組んでいた。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	来訪の機会が少ない家族も含め、毎月発行しているグループホーム通信で近況報告している。必要時電話でやり取りもしている。今年度より、請求書と一緒に利用者の写真を送付している。			○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の不安に感じていることや知りたいことを伝えて頂き、それに対しお答えしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族の方から、相談された時には、入居者の対応に悩んだことを聞き、傾聴したり、アドバイスなども行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のグループホーム通信で新しい職員の紹介や行事について写真付で記載し、全入居者家族に郵送している。			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルス感染対策の為現在は実施できていない。以前は食事会や外食を2ヶ月に一度開催しており、食事席等工夫はしていたが、家族同士が盛んに交流が図れるようにはできていなかった。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて必要時、家族に説明を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	△	積極的にには行っていない。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に当たっては利用者が一番良い形で退居に移れるように家族と話し合いを設け支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時、変更時には、料金について説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の目的や役割について説明している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、法人・複合施設と合同で、地域と一緒に夏祭りを実施したり、積極的に平井商店街の土曜夜市などの地域行事に参加したり、演奏などのボランティアを受け入れるなど、地域住民と交流を深めることができていた。現在のコロナ禍において、交流できる機会は自粛しているものの、限られた中でも日常的な地域住民と挨拶などを行い、つながりが途絶えないよう努めている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナウイルス感染対策の為現在実施できていないが、以前は地域の商店街の夜市や地方祭など、地域行事への参加をしていた。	/	×	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	立地が山であり、気軽に立ち寄ることは難しい為、増えていない。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	立地が山であり、気軽に立ち寄ることは難しい。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルス感染対策のため、外出ができておらず、近所の人と会う機会がない。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	外出支援等のボランティアの方への働きかけは出来ていないが、演奏会等の行事のボランティアの方は多く支援して下さっていた。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	社会資源の把握はきちんとしてきていない。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	コロナウイルス感染対策の為現在実施できていないが、以前は小学校へ介護体験学習の講師で出向いたり、法人全体で地域とのつながりを大切にしてきた。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っている。	○	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は書面開催となっているものの、事前に参加メンバーから意見をもらうことができています。会議では、利用者の様子や事業所での出来事などを話し合い、参加メンバーと意見交換をしている。また、会議結果を報告書にまとめ、日常の利用者の写真を添えて、家族に送付することができている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っている。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っているが、利用者家族からの返信はほとんどない。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナウイルス感染対策の為現在実施できていない。実施時にもテーマに合わせて日程や時間帯の配慮ができていなかった。	/	/	○		/
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも見ていただけるようにファイリングして設置している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいて行動している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を目に入りやすい場所に掲示しているが、その都度分かりやすくは伝えられていない。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者が主となり、キャリアアップ委員会を発足している。介護の知識と技術を習得する為の梅本の里独自のキャリアアップ制度「梅星制度」を実施し、職員がスキルアップできるように取り組んでいる。現在コロナウイルス感染予防の為制限を設けて実施。				施設長は、事業所に来訪する機会は少ないものの、定期的に職員全員と面談を行い、話しをする機会を作っている。副施設長は、以前の事業所の管理者であり、事業所にも頻りに訪れて利用者や職員とかかわっていることもあり、職員は話しやすく、意見や要望を伝えることができている。また、法人独自のキャリアアップ制度を取り入れたり、定期的に研修会を開催したりするなど、職員のスキルアップに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	共育委員会を主として、職員同士が教え合う勉強会を実施し、スキルアップに繋げている。現在コロナウイルス感染予防の為制限を設けて実施。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	定期的に個人面談を実施し、意見や考え等を聞いている。その中で出た意見を、活かして職場環境改善に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者・職員は、研修や交流会を通して他事業所と交流の機会を持ち意識の向上に取り組んでいる。現在コロナウイルス感染予防の為制限を設けて実施。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設長面談を定期的に実施し、職員一人ひとりから意見を聞き、意見を基に管理者へ改善に向けアドバイスを行っている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待について研修会等で勉強し、理解している。				職員は研修会などで学び、虐待や不適切なケアが行われないよう職員は意識した言動に努めている。また、職員は不適切な行為などを発見した場合の対応方法を理解している。時には、職員が利用者に大きな声を出したり、あからさまな介助が見られたりすることもあるため、普段のケアを振り返り、不適切なケアとは具体的にどのようなことが該当するかなどを継続して職員間で話し合い、理解が深められることを期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議やその都度、話し合いの機会をもっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の表情や態度に気をつけている。時に職員から話を聞いている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	虐待について研修を定期的に行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明し理解してもらっている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者は理解を深めるように取り組んでいるが、全職員には周知徹底はできていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現状に合わせて、必要時、情報提供に努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な利用者が制度を利用できるように専門機関と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故防止対策委員会を主として、職員間でヒヤリハットを確認し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会議等で利用者の状態を話し合い、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情の対応は、苦情対応窓口と管理者が行っている為、全職員が理解して実行はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要時には、市にも報告・相談するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	真摯に受け止め、速やかに対応するようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	普段から言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。			○	日々のかかわりの中で、担当職員を中心に利用者が望んでいることを汲み取ったり、意見を聞いたりしている。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限が設けられており、家族と顔を合わす機会が激減しており、電話連絡時に意見を聞くほか、毎月送付する書類に、意見や要望があれば連絡してもらうように記載している。また、管理者は職員会議の前に職員に議題を伝えて、職員が意見や提案を出しやすいよう工夫している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	コロナウイルス感染対策の為実施できていないが、以前は運営推進会議で要望を聞く機会を設けていた。現在は面会時や電話で意見や要望を聞くよう努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみの実施で随時の情報提供はできていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者が直接現場に足を運ぶことはあまりない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者面談を定期的に行なっている。日頃から意見を言ってもらうように心掛けている。			○	

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価し、職員同士で共有を図っているが、全員での自己評価には取り組めていない。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら各ユニットで作成している。運営推進会議の中で、サービスの評価結果を報告している。現在のコロナ禍において、面会制限が設けられていることもあり、運営推進会議のメンバーや家族に、取り組み状況の確認などのモニターをしてもらうまでには至っていない。今後は、書面においても、サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況の経過を伝えて助言などをもらったり、コロナ禍の収束後には会議の参加メンバーや家族にモニターの協力が得られるよう呼びかけたりするなど、家族等に取組み内容の理解が得られることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	意識統一は図っているが、学習はできていない。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を事業所間のみで取り組み、法人全体では取り組みができていない。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施出来ていない。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果の確認ができていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	施設周辺の災害を想定してマニュアルを作成している。	/	/	/	複合施設と合同で、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。地域や複合施設と連携を図り、災害時の対応について、役割分担をするなどの具体的な協力体制が築けることを期待したい。また、法人として、食料などの備蓄品や非常用品を整備している。今後は、事業所の避難経路となっている場所の環境整備の点検を実施したり、職員の緊急連絡網を活用して、機能の確認訓練を実施したりするなど、職員全員で災害を意識した対応が取れることを期待したい。さらに、家族等へ周知し、災害への備えなどの理解が得られることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的を確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の防災訓練に参加しているが、施設で合同訓練は実施できていない。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災訓練に参加し、ネットワークづくりに心掛けてきた。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	地域の小学校に出向き介護教室を定期的で開催していた。	/	/	/	事業所として、地域の高齢者や家族から相談があった場合には、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に繋ぐなどの適切な対応をしている。また、市行政や地域包括支援センター等との協力体制が構築されており、連絡会の会議や研修にも参加協力をしている。さらに、コロナ禍以前は、定期的に地域の小学校で介護教室を開催することができていた。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば対応している。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	活用はできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	コロナウイルス感染対策の為現在は制限を設けているが、可能な限り実習生や介護体験など受け入れを積極的に行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	コロナウイルス感染対策の為現在は実施できていないが、以前は地域包括支援センターと協力し、地域活動に参加していた。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 15 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870102187
事業所名	グループホーム梅本の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	村上 美香
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 22 日

<p>【事業所理念】</p> <p>利用者と共に笑い 家族と共に歩み 地域と共に支え合う</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画に沿って、ケアプランチェック表を作成し、各入居者の介護計画を「見える化」した。主に取り組むべき支援について確認し、各個人の記録に反映しやすくなった。</li> <li>・口腔内チェック、食事の様子の観察から何名か歯科受診をし、義歯の調整や虫歯の治療、又は食事形態の変更により、食量増加につながった。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市中心部から少し離れた、山あいの四季折々の景色が眺められる静かな場所に、事業所は立地している。事業所の横には、法人本部と特別養護老人ホーム等が併設されているほか、法人では数か所の福祉施設や事業所を運営するなど、地域に根づいた福祉を展開している。また、事業所には勤務経験の長い職員も多く、職員同士が相談し合うなど、より良いチームワークの職場づくりを目指しており、待遇面においても安心して働くことができる。さらに、管理者等は、「利用者に生き生きとした楽しみのある毎日を過ごしてもらいたい」との思いで、日常生活の中に、利用者ができることを見つけながら役割を持ってもらっている。訪問調査日には、自然に洗濯物干しなどの家事を行う利用者の様子を見ることができた。加えて、現在のコロナ禍において、事業所には外出制限があり、利用者は外出できる機会が激減しているものの、事業所内でできるお好み焼きづくりや運動会など、楽しみのある行事を開催する工夫をしたり、その様子を家族にグループホーム通信「梅本の里便り」などを活用して写真で伝えたりするなど、家族が安心できる取組みを行っている。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	出来る限り利用者の希望や意向の把握に努めている。	○	/	○	入居前に、職員は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き、確認している。日々の生活の中で、知り得た情報は記録に残し、職員全員で把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人はどうして欲しいか、どうしたいのかを考え取り組んでいる。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	コロナウイルス感染対策のため面会ができない分、できるだけ密に家族等と連絡をとり、話し合う機会をつくっている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	昔の話など、本人から聞いたことを個人のファイルなどに記録し、職員間で共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士で話し合いする中で注意し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	コロナウイルス感染対策のため面会ができない分、入居前やその後にも家族からの情報を細かく聞くようにしている。また、日常の関わりの中で本人から昔の話を聞くよう心がけている。	/	/	○	入居前に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方など聞くほか、入居後も継続して情報を聞いている。入居前に利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員から情報を聞くこともある。また、入居申込の際には、家族に利用者の経歴や趣味などを記載してもらったシートを渡し、提出してもらっている。さらに、日々のかかわりの中で、知り得た情報は記録に残すほか、口頭で伝達して職員全員で共有できるよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	その方が今出来ることを見極め、出来ることをしていただくように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員間で情報共有し、ある程度把握はできている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間で情報共有し、ある程度把握はできている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で情報共有し、ある程度把握はできている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	職員会議等で話し合いを設けているが、職員間でのみの検討会となっている。	/	/	○	事前に把握した情報から、どのような支援を求めているかを利用者の立場で考えるほか、利用者や家族、関係者から聞いた情報をもとにして職員間で話し合い、より良いサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	検討し、実行している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題についても検討し、話し合いを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向に出来る限り反映した内容としている。				利用者や関係者の意見を聞くほか、職員間で意見を出し合いながら検討し、計画作成担当者が取りまとめた介護計画を作成している。計画の作成後には、家族に内容を確認してもらうことができていないため、事前に家族から意見や意向を聞くことができていないため、コロナ禍の収束後には、家族にサービス担当者会議への参加を呼びかけたり、定期的に意見や意向を聞いたりするなど、出された意見が反映された計画が作成できることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	利用者の生活状況・心身状態・日常の記録をもとに、職員同士での話し合いが中心となっている。家族には、ケアプランをもとに説明し、意見や要望があった場合、反映できるように努めている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限り実現できるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナウイルス感染対策のため、地域との協力体制が以前より難しい。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各職員が介護計画の内容を理解し、職員会議にて話し合いを行い、情報共有できている。				職員会議の中で、職員は介護計画の内容の話し合いをしていることもあり、利用者一人ひとりの計画内容を把握している。日々のケアにおいて、介護計画のサービス内容に沿って実施できているか確認できるよう、ケアプランチェック表の項目を介護計画の内容と連動し、どの職員が見ても分かりやすい状況確認ができるような様式を作成するなど、職員間で検討することを期待したい。また、日々利用者が発した言葉や表情など、その時々様子が職員間で共有できるよう詳細な記録を残し、日々のケアに繋がられることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	話し合いや連絡簿等で情報共有できている。日々のケアにもつなげている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	細かな記録ができていない時がある。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	共通連絡にて気づきがあれば記録し、職員間で共有している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。				要介護認定の期間に合わせて、介護計画の見直しをしている。状態の変化が見られない利用者までは、毎月モニタリングを行い、現状確認をすることができていないため、利用者の状態の変化を見逃すことも考えられ、期間を決めて定期的にモニタリングを実施するなど、現状に即した介護計画の作成ができることを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	変化が見られない時には、毎月の現状確認はできていない場合がある。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	現状に即した細やかな計画の変更が出来ていない場合がある。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月の会議と緊急時には、その日の出勤職員を中心に話し合いを行っている。				毎月実施する職員会議を両ユニット合同で行い、利用者の様子や事業所の取組みなどの話し合いをしている。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員は、後日会議録を確認してもらうほか、重要事項は口頭でも伝達を行い、職員間で情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	事前に会議の議題を配布し、話し合いがスムーズに行われるようにしている。また、司会を持ち回りにし、意見を発表しやすいように心がけている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り多くの職員が参加できる日を決めて会議を行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員には、口頭で伝えたり、会議録やシステムの共通連絡にて会議に出席した職員も含め全職員が確認をしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	情報を全職員が確認できるように、システムの共通連絡を活用し、徹底できている。				◎ 朝・夕の申し送りを実施している。毎日の申し送り事項や会議録は、パソコンのシステムを活用して画面上で確認するようになっている。また、記録の確認後には名前を入力し、どの職員が確認を見落とししていないか、分かるようなシステムとなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	情報伝達事項を申し送りやシステムの共通連絡を活用し、伝わるように徹底できている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一人ひとりのその日にしたいことを把握し実行はできていない。	/	/	/	お茶の時間の飲み物やその日に着る洋服を、多くの利用者は自分で選ぶことができている。日常生活においても、職員が一方的に決めることなく、利用者が選択できるような声かけや対応に努めている。また、一人ひとりの趣味を楽しんでもらっており、中には、入居前からの習字や裁縫、ジャズ鑑賞などの趣味を継続できている利用者もいる。さらに、現在のコロナ禍において、事業所内で過ごす時間が増えているため、バーベキューやおやつ作りなどを取り入れ、利用者が楽しめるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるように焦らせない雰囲気作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	出来る限り、どうしたいかなど確認しながら、生活して頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来る限り、一人ひとりの方に合わせたペースで支援するように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が元気にあいさつしたり、ゆったりとした笑いの多い雰囲気作りに心がけている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	その日の身体・精神的状況により職員同士が口頭で気づきを共有している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	人権や尊厳についての学びは実施できていないが、意識し行動できている。	/	○	○	職員は、利用者の人権や尊厳を大切にされた日常のケアに努めているが、時には、無意識の内にあからさまな介護や大きな声でトイレ誘導を行う場面も見られる。定期的に、職員がケアの振り返りを行うとともに、職員同士で注意し合うなど、職員間で話し合い、利用者の人権や尊厳について再認識できることを期待したい。また、居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、職員はノックや声かけをしてから入室できるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	意識し行動している職員がほとんどだが、大声でトイレ誘導を行う職員もいる。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	各居室にトイレを設置しており、入浴は個室で行なっており、プライバシーには十分注意できている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	意識し対応している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	十分理解できていると考える。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えを授けたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事を一緒にしたり、裁縫をしてもらったり、お互いに感謝し合う関係性ができている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性や性格を理解し、リビングの配席の考慮などの対応をしている。また、些細なトラブルなど、他の利用者が仲裁してくれる場面も見られるなど、力を発揮してもらうことができ、職員は助かっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々利用者と共に助け合いの気持ちで生活していると感じている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、極力トラブルがないよう努めている。利用者が孤立しないように配慮もしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった各利用者のお話を傾聴し、精神的な安定を図っている。他の利用者に関しても、不安等がないように声かけや気分転換を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	細かな人間関係を把握できていない場合がある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	細かな人間関係を把握できていない場合がある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルス感染対策のため、実現できていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルス感染対策のため、面会はできていないが、所用で職員が家族に会う時は話しかけやすい雰囲気心掛けています。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染対策のため、外出はできていないが、ベランダ散歩や植物の世話などで外に出る機会をつくっている。	○	×	△	コロナ禍以前は、外食やドライブに出かけるほか、個別の外出支援にも対応することができていた。現在のコロナ禍において、外出できる機会は激減しており、ベランダや駐車場に出て散歩をしたり、重度の利用者も含めて、外の景色を眺めながら外気浴ができるよう工夫している。また、事業所では、パーベキューやおやつ作り、施設内での運動会などを取り入れ、利用者に楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援ボランティアの活用はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	出来る限り、散歩や日向ぼっこなど閉じこもりにならないように努めている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナウイルス感染対策の為外出はできていない。以前は外出行事などでご家族の協力を得ていたが、回数は少なかった。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ある程度、認知症についての知識を持ち対応にあっている。				利用者のできることや、できそうなことを職員が見極めて、細かいことでも利用者ができることを見つけて一緒に行ったり、見守ったりする支援に努めている。時には、時間の制約や待ちきれず、利用者に口や手を出してしまうことも見られる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症状について職員間で情報共有し、維持向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	極力ゆくりと待つ姿勢で一緒に行ったり、できることをしてもらうようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	把握するようにしている。				洗濯物干しやたたみ、野菜の皮むきなどの調理の下準備、掃除など、利用者に役割や出番を持ってもらえるよう支援している。職員は手伝ってもらった場合には、利用者に感謝の気持ちを伝えている。また、裁縫の得意な利用者が雑巾を縫ったり、ズボンの裾上げをしてもらったりするなど、得意なことを活かせるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	出来る事を見つけ、毎日の生活の中で役割を持てるよう声掛けなど工夫している。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割等の支援はできていない。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個人の好みを把握し、衣類等なるべく自分で選んでもらっている。				整容の乱れや汚れが見られた場合には、利用者の羞恥心やプライドに配慮しながら対応をしている。お化粧品や好みの装いなど、おしゃれを楽しんでいる利用者もいる。また、ベッド上で過ごすことが多い利用者にも、日中にはパジャマから好みの屋間着に着替えてもらうなど、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族の協力を得ながら、利用者が好みの服装や持ち物などで整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	必要時には利用者と一緒に考え意見を聞きながら決定している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装に心掛け、その人らしい服装を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけがなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服の着方が間違っている場合などは、自尊心を傷つけないように居室に戻っていただき、優しい声掛けに気をつけている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナウイルス感染対策のため外出が難しく、できていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	出来る限り、本人らしい髪型や服装になるように心掛けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事について理解している。				事業所では、献立の作成と食材の調達を食材の宅配業者に委託している。業者から届けられた食材を活用し、日常的に利用者には調理の下ごしらえや片付けを手伝ってもらいながら、主に調理を担当する職員を中心に調理をしている。誕生日には業者の配達を止めて、利用者のリクエストを取り入れて、調理することができている。朝食時に添える果物などの購入は、ネットスーパーを活用している。食器類は、利用者自身が使い慣れた物や、使いやすい物を使用している。キッチンがリビングに面しているため、重度の利用者も調理の匂いや音を感じることができている。また、現在のコロナ禍において、職員は利用者と同じ距離をおいて、見守りやサポートをしながら、各ユニット1名は利用者と同じ献立を食べるようにしている。さらに、委託業者が栄養バランスに考慮した献立を作成しているほか、職員間で調理方法などを話し合い、状況に応じて柔軟に対応している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材選びや買い物は外部委託の為、実施出来ないが、料理の下準備や後片付けなど利用者とともにやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者にしてできることをして頂き、生きがいに繋がる。終わった後には必ず感謝の気持ちを伝えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は外部委託であるが、誕生日などには委託を中止し、旬の食材を使用したり、利用者の好みや昔懐かしいメニューも取り入れて献立作りをしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	必要時には本人や家族・主治医・職員間で相談しながら食事形態を決めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	今迄使い慣れたものや使いやすい物、を使用してもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	現在は感染防止のため、一緒に食べていないが、見守り、サポートは行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の準備を見て頂いたり、においを感じてもらえる様にフロアで過ごしてもらっている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりの食べられる量に気をつけている。水分制限がない方に関しては、一日の水分量を1,500～2,000ccを目標とし脱水にも注意している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事チェック表を活用し食事摂取量を把握できている。食事摂取量が少ない時には、本人に確認したり、必要時には食事形態を変更するなど対応している。水分摂取は摂取量に気を付け、飲み物も工夫している。必要時には栄養補助飲料を処方してもらう等の対応もしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立、調理方法は、外部委託により、バランス・栄養が考えられたものになっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は、外部委託で定期的配達され、冷蔵・冷凍により、新鮮さや衛生面に配慮されたものになっている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性を理解し、口腔ケアを実施している。歯が無く義歯も使われない方に対しては、毎食後うがいをしてもらうようお願いしている。				毎食後、利用者は口腔ケアを行い、職員は口腔内の状況確認や清潔保持に努めている。異常があれば、歯科医の受診に繋げている。自分で歯磨きをしている利用者の口腔内の状況までは確認することができていないため、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することを期待したい。また、事業所では口腔ケアの勉強会や研修を実施することができていないため、口腔ケアが全身疾患の予防や健康状態の維持向上に繋がると職員全員が理解し、歯科医や歯科衛生士を講師として研修を実施したり、アドバイスをもらったりするなど、口腔ケアの重要性を再認識できることを期待したい。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアをご自分でされる方は、終わった後に声かけし口腔内の確認を行い、十分できていない場合は磨き直しを行っている。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	口腔ケアの必要性は理解しているが、勉強会等は実施できていない。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	歯磨き粉等で洗われようとする方もいる為、声掛けや見守りにて支援している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	ある程度支援できている。					△
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常等あれば、早期に受診や往診に繋げるように努めている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	失敗が増えてきた方には時間をみてトイレの声掛けをし、自信がもてるよう支援している。				事業所では、トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけやトイレ誘導を行っている。パッドや紙パンツに頼りすぎず、適切な排泄用品の使用などを、定期的に排泄委員会で話し合うことができています。また、声かけやトイレ誘導で、パッドの使用枚数を減らすことができた利用者もあり、自立や自信に繋がるような支援にも取り組んでいる。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ある程度把握はできている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄委員会を中心として、話し合いを行い、見直しを行っている。一人ひとりの状態に合わせたパッド等を選んでいく。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄委員会を中心として、検討し、改善に向けて実行している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェックをもとに個々の排泄パターンの把握に努め、職員間でも情報共有するように努めている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パッド等の使用については、時間帯によって種類を変えて対応している。必要時には家族にも相談して対応している。ご自分でパッド交換される方は、交換しやすいパッドを使用してもらっている。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	1人ひとりにあった下着やおむつを使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取を促し、毎日体操の実施、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れて自然排便を促している。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	午前中の中入浴がほとんどではあるが、本人の状態に合わせて午後からの入浴も対応している。	◎		○	利用者は、3日に1回を基本として入浴することができる。入浴の回数や時間など、利用者の希望や状態に合わせて、柔軟に対応している。また、季節に応じて入浴剤を使用するなど、入浴を楽しんでもらえるような工夫をしている。さらに、事業所では、なるべく利用者が湯船に浸かれるような入浴支援に努めており、利用者の状態に応じて、シャワー浴の対応をしたり、併設施設の機械浴槽を活用した入浴を検討したりすることもある。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時はその方に合わせて対応し、焦らずゆっくり入浴できるように努めている。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることをして頂き、必要時は声かけ見守りを行い、安全に入浴できるように努めている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否される方に対しては、足湯で対応したり、着替えのみしていただいたり、その日の状況によって、無理強いせず対応している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、状態観察し、入浴している。血圧が高い時や熱発されているときなどは、説明し、納得して頂き中止とすることがある。入浴後には、状態観察し静養して頂いている。					

愛媛県グループホーム梅本の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間は一時間おきの巡回や必要によっては頻回に様子観察している為、睡眠パターンを把握できている。	/	/	/	入居前から、服薬を継続している利用者もいるものの、事業所では日中の過ごし方や対応を工夫しながら、主治医と相談して服薬を取り止めることのできた利用者もいる。また、事業所では、なるべく睡眠導入剤や安定剤に頼りすぎないように状態を確認しながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	職員同士で話し合いを行い、活動量を増やすなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠状態を確認し、必要時には主治医に相談して、夜間なるべく薬に頼らず眠れるよう、日中の活動も含め話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入浴で疲れていたり、足の浮腫みがある方など必要時には昼寝の声をかけている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご自分から電話の希望がある場合は、随時対応している。遠方の家族はこちらから連絡をしたり、近況報告等を手紙で送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人からの訴えが無い場合には、手助けが十分には出来ていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	夜間などは説明させてもらう場合もあるが、いつでも電話をかけられる様には配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	一緒に確認し、必要時には返信のお手伝い等行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要時には、家族に説明理解・協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	概ね理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナウイルス感染対策のため外出ができておらず、買い物は家族が職員が行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	日頃から働きかけはできていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談し、預かり金とは別に、小額をご自分で管理して頂いている方がいるが、買い物に出かけて自分で使えるような支援には至っていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居する際に説明している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に十分に説明すると共に、面会時には家族に出納帳を確認してもらいサインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の状況に合わせて、相談しながら、サービス提供している。	/	◎	◎	コロナ禍以前は、家族の協力を得て外出や旅行を楽しむ利用者がいたほか、希望によりマッサージなどの外部サービスを取り入れることもできていた。また、事業所では、可能な範囲で利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	併設の施設がある為、初めて来られた方には分かりにくい。	◎	△	△	外部からの来訪者は、事業所へ地下駐車場からエレベーターを使用して行き来するようになっている。併設施設もあり、敷地や駐車場も広く、初めて来訪した人が事業所の入り口が分かりやすいように駐車場内に案内板を出している。また、エレベーター内には利用者の日常の様子を写真を貼っている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の掲示物を入居者と一緒に作成して共有スペースに掲示したり、ソファやテーブル等色彩を考え、家庭的な居場所をつくり心地よく過ごせる環境となっている。	◎	○	○	リビングに面した対面キッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができ、コミュニケーションも取りやすくなっている。掃除道具や日用雑貨も、利用者の手の届く場所に置き、生活感がある。また、空調の吹出口に布を取り付け、利用者へ直接風が当たらないよう工夫している。さらに、窓からは山などの景色が眺められ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	曜日で掃除をする場所を決めて実施している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓から良い山の風景が見えるので、季節の移り変わりを感じることができている。また、ベランダにプランターを置き、季節の花を感じられるようにしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	配慮し、工夫している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	各居室にトイレが設置されている為、他の方が使用する事がない。浴室も直接見えないうに造られている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に説明し、使い慣れたものを持ってきていただいている。	◎			居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、洗面台、トイレが備え付けられている。ほとんどの利用者は、居室にあるトイレを使用している。また、馴染みの物や好きなものを置き、居心地の良い空間になるよう支援している。さらに、生活習慣で、床に布団を敷いて寝ることを好まれる利用者には、床に畳を敷くなどの対応をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	フロア内だけでなく、ベランダを散歩されることもある。危険が無い様に状況確認を行っている。必要時付添いも行っている。			○	事業所では、リビングを囲んで各居室が配置され、利用者は生活しやすくなっている。自分の居室の場所に迷う利用者には、入り口に分かりやすく名前を表示している。また、利用者に月日が確認できるよう、大きい文字や数字で記した日めくりカレンダーをリビングに設置している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員同士で情報共有をし、配置等に工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	物によっては、すぐに手の届かないところに置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	概ね理解はしているが、オートロックである為、改善に向けての話し合いはできていない。しかし、窓は夜間以外は開錠し自由にベランダに出れるようにはしている。	◎	○	○	各ユニットは、併設の複合施設の建物内部とつながっているものの、その間を仕切る扉は建物の構造上でオートロックになっており、普段は活用されていない。また、1階と2階のユニット間の入り口は施錠されておらず、利用者は階段を使用して行き来することができる。さらに、帰宅願望のある利用者や限られた空間で不穏になる利用者には、職員と一緒にベランダや駐車場に出て散歩をするなど、落ち着いてもらえるような対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	構造上の問題もあり、話し合いはできていない。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	構造上他の建物と併設で建っている為、オートロックを採用している。その為、外に自由に行き来が出来ないつくりになっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報を共有し利用者本人の状態について理解している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体の状態変化に気付いた場合、看護師に報告し必要時早期受診に繋げている。変化についても記録にも残す様に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	24時間看護師と連携しており、迅速な対応に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時や必要時には本人・家族と確認し、希望する医療機関に受診できるように努めている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	必要時には主治医と連絡をとり、相談しながら受診等に繋げている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診した結果について家族等と情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時にはサマリーを作成している。口頭や連絡等でも情報提供するように努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には地域医療連携室の相談員と連絡を取り、病院で直接やり取りや話し合いをしたり、電話でも状態確認に努め、一日でも早く退院ができるようにこちらも受け入れ態勢を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	協力病院は、日頃より関係づくりは出来ているが、入院の場合に備えて日頃からの関係づくりはあまりできていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気付いた事は常時看護師に報告するようにしている。必要時は主治医に報告し、報告・連絡・相談の情報共有を図っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	気軽に相談できる体制で十分連携できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	看護師と情報共有を図り、連携する事で、早期発見・早期治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ある程度は理解できている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	共通連絡も活用しながら、全職員が統一した対応が出来るように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	確認し、副作用があれば、看護師、主治医に報告し薬の調整を行い、早期に対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態の変化があれば、その都度医師に報告し、薬の調整をしている。情報提供できている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	その都度、家族の意向を聞きながら、話し合いを行っている。	/	/	/	事業所には、「グループホームにおける看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所での看取り介護は、可能となっている。利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認するほか、主治医と相談しながら今後の方針を決めている。また、事業所の開設から、看取り介護を数回経験しているものの、ここ数年は病院への入院や系列施設へ転居する利用者が多くなっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	必要時には、家族と相談し、病院のドクター等も交えて話し合いの場を設けている。	x		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	把握に努め、見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明し、運営推進会議等でも説明をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	利用者の状態に応じて、重度や終末期について家族や主治医等と話し合いを行っているが、全利用者が出来ているわけではない。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	出来る限り、密に連絡を取り、対応しているが、全利用者にできているわけではない。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修を実施し蔓延防止に努め、感染症が流行する時期には消毒や換気、加湿器の設置、マスクの着用など感染症予防を徹底している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	年に一度は必ず感染症の研修を実施しているが、全員の参加が出来ていないため、研修した職員が資料配布や口頭での情報共有を図っているが、日頃から実践での訓練までは出来ていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	法人全体で情報は入手し配布している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人全体で地域の感染症発生状況を確認し、情報発信し、注意を呼びかけるなど、随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症が流行時期には特に職員・利用者の手洗いうがいの実施やマスクの着用。来訪者へのお願いも強化している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	関係づくりに努めてはいるが、全職員は関係を築けていない。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけ、参加協力を得て交流を深めることができていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けるようになってから、毎月送付する請求書に合わせて、利用者の日常の様子が分かる写真を同封するようになっている。また、毎月グループホーム通信「梅本の里便り」を発行しており、事業所内で実施した行事や利用者の写真を掲載し、家族に送付している。コロナ禍で家族の来訪が激減し、事業所では職員と顔を合わせる機会が少なくなっているため、毎月写真を送付時に、管理者と担当職員から、利用者の様子を書いた手紙を同封したり、利用者本人に書いてもらった直筆の文書を添えたりするなど、家族の面会が制限されている中でも気軽に相談でき、安心感を持ってもらえるような取組みを期待したい。さらに、電話連絡時には、家族に利用者の近況を伝えるようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が来所された際は、笑顔で挨拶を心掛け、面会中止中は、利用者の普段の様子を伝えている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナウイルス感染対策の為現在実施できていないが、以前は食事会や行事を企画し、家族がホームに訪れて頂けるよう取り組んでいた。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	来訪の機会が少ない家族も含め、毎月発行しているグループホーム通信で近況報告している。必要時電話でやり取りもしている。今年度より、請求書と一緒に利用者の写真を送付している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の不安に感じていることや知りたいことを伝えて頂き、それに対しお答えしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族の方から相談された時は、入居者の対応に悩んだことを聞き、傾聴したり、アドバイスなども行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のグループホーム通信で新しい職員の紹介や行事について写真付で記載し、全入居者家族に郵送している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルス感染対策のため、できていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて必要時、家族に説明を行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	△	積極的にには行っていない。	/	/	△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明を行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に当たっては利用者が一番良い形で退居に移れるように家族と話し合いを設け支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時、変更時には、料金について説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の目的や役割について説明している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、法人・複合施設と合同で、地域と一緒に夏祭りを実施したり、積極的に平井商店街の土曜夜市などの地域行事に参加したり、演奏などのボランティアを受け入れるなど、地域住民と交流を深めることができていた。現在のコロナ禍において、交流できる機会は自粛しているものの、限られた中でも日常的な地域住民と挨拶などを行い、つながりが途絶えないよう努めている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の商店街の夜市や地方祭など、地域行事への参加をしてきたため、現在行事等は中止になっているが、地域とのつながりは継続している。	/	×	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	立地が山であり、気軽に立ち寄ることは難しい為、増えていない。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	立地が山であり、気軽に立ち寄ることは難しい。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルス感染対策のため外出ができておらず、近所の人に会う機会がない。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	現在はコロナウイルス感染対策のため、できていない。以前は演奏会等の行事のボランティアの方が多く支援してくださっていた。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	社会資源の把握はきちんとできていない。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	以前は小学校へ介護体験学習の講師で出向いたり、法人全体で地域とのつながりを大切にしてきた。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っている。	○	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は書面開催となっているものの、事前に参加メンバーから意見をもらうことができています。会議では、利用者の様子や事業所での出来事などを話し合い、参加メンバーと意見交換をしている。また、会議結果を報告書にまとめ、日常の利用者の写真を添えて、家族に送付することができている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っている。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	運営推進会議は現在、書面のやり取りのみで行っているが、利用者家族からの返信はほとんどない。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマに合わせて日程や時間帯の配慮ができていなかった。	/	/	○		/
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも見ていただけるようにファイリングして設置している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいて行動している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を目に入りやすい場所に掲示しているが、その都度分かりやすくは伝えられていない。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者が主となり、キャリアアップ委員会を発足している。介護の知識と技術を習得する為の梅本の里独自のキャリアアップ制度「梅星制度」を実施し、職員がスキルアップできるように取り組んでいる。				施設長は、事業所に来訪する機会は少ないものの、定期的に職員全員と面談を行い、話しをする機会を作っている。副施設長は、以前の事業所の管理者であり、事業所にも頻りに訪れて利用者や職員とかかわっていることもあり、職員は話しやすく、意見や要望を伝えることができています。また、法人独自のキャリアアップ制度を取り入れたり、定期的に研修会を開催したりするなど、職員のスキルアップに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	共育委員会を主として、職員同士が教え合う勉強会を実施し、スキルアップに繋げている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	定期的に個人面談を実施し、意見や考え等を聞いている。その中で出た意見を、活かして職場環境改善に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流の機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者・職員は、研修や交流会を通して他事業所と交流の機会を持ち意識の向上に取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設長面談を定期的に実施し、職員一人ひとりから意見を聞き、意見を基に管理者へ改善に向けアドバイスを行っている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待について研修会等で勉強し、理解している。				職員は研修会などで学び、虐待や不適切なケアが行われないよう職員は意識した言動に努めている。また、職員は不適切な行為などを発見した場合の対応方法を理解している。時には、職員が利用者になど大きな声を出したり、あからさまな介助が見られたりすることもあるため、普段のケアを振り返り、不適切なケアとは具体的にどのようなことが該当するかなどを継続して職員間で話し合い、理解が深められることを期待したい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議やその都度、話し合いの機会をもっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の表情や態度に気をつけている。時に職員から話を聞いている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	虐待について研修を定期的に行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明し理解してもらっている。				

愛媛県グループホーム梅本の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者は理解を深めるように取り組んでいるが、全職員には周知徹底はできていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現状に合わせて、必要時、情報提供に努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な利用者が制度を利用できるように専門機関と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故防止対策委員会を主として、職員間でヒヤリハットを確認し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会議等で利用者の状態を話し合い、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情の対応は、苦情対応窓口と管理者が行っている為、全職員が理解をして実行はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要時には、市にも報告・相談するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	真摯に受け止め、速やかに対応するようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	普段から言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。			○	日々のかかわりの中で、担当職員を中心に利用者が望んでいることを汲み取ったり、意見を聞いたりしている。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限が設けられており、家族と顔を合わす機会が激減しており、電話連絡時に意見を聞くほか、毎月送付する書類に、意見や要望があれば連絡してもらうように記載している。また、管理者は職員会議の前に職員に議題を伝えて、職員が意見や提案を出しやすいよう工夫している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	契約時には具体的に説明を行っているが、積極的に意見を聞く機会は作れていない。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみの実施で随時の情報提供はできていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者が直接現場に足を運ぶことはあまりない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	日頃から意見を言ってもらうように心掛けているが、全職員が言いやすい状況ではない。			○	

愛媛県グループホーム梅本の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価し、職員同士で共有を図っているが、全員での自己評価には取り組めていない。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら各ユニットで作成している。運営推進会議の中で、サービスの評価結果を報告している。現在のコロナ禍において、面会制限が設けられていることもあり、運営推進会議のメンバーや家族に、取組み状況の確認などのモニターをしてもらうまでには至っていない。今後は、書面においても、サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況の経過を伝えて助言などをもらったり、コロナ禍の収束後には会議の参加メンバーや家族にモニターの協力が得られるよう呼びかけたりするなど、家族等に取組み内容の理解が得られることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	意識統一は図っているが、学習はできていない。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を事業所間のみで取り組み、法人全体では取り組みができていない。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施出来ていない。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果の確認ができていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	施設周辺の災害を想定してマニュアルを作成している。	/	/	/	複合施設と合同で、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。地域や複合施設と連携を図り、災害時の対応について、役割分担をするなどの具体的な協力体制が築けることを期待したい。また、法人として、食料などの備蓄品や非常用品を整備している。今後は、事業所の避難経路となっている場所の環境整備の点検を実施したり、職員の緊急連絡網を活用して、機能の確認訓練を実施したりするなど、職員全員で災害を意識した対応が取れることを期待したい。さらに、家族等へ周知し、災害への備えなどの理解が得られることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の防災訓練に参加しているが、施設で合同訓練は実施できていない。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災訓練に参加し、ネットワークづくりに心掛けてきた。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	地域の小学校に出向き介護教室を定期的に開催していた。	/	/	/	事業所として、地域の高齢者や家族から相談があった場合には、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に繋ぐなどの適切な対応をしている。また、市行政や地域包括支援センター等との協力体制が構築されており、連絡会の会議や研修にも参加協力をしている。さらに、コロナ禍以前は、定期的に地域の小学校で介護教室を開催することができていた。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば対応している。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	活用はできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	感染対策のため制限はあるが、可能な限り実習生や介護体験など受け入れを積極的に行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域包括支援センターと協力し、地域活動に参加してきた。	/	/	○	